

コニカミノルタグループ
2012年(平成 24年)3月期
第1四半期 決算説明会
主な質問と回答

日 時: 2011年7月28日(木)18:30~19:30
場 所: 野村コンファレンスプラザ日本橋 6F 大ホール

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご承知ください。また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知ください

■ 情報機器事業関連

Q: 第1四半期における震災影響は、当初想定よりも損益悪化に影響を与えた模様ですが、どの様な背景があったのでしょうか。

A: 第1四半期は、電子部品を中心とした部品調達の制約を受ける中、工場稼働率を低下させないことを最優先とし、生産計画を固定して生産を行っていました。4月度および5月度は製品供給面での問題はなく、計画通り順調に推移しました。しかし、第1四半期で最も売上が大きな6月度の後半で、実際の需要と製品在庫にミスマッチが発生し、販売機会の逸失による利益の未達が発生しました。また、部材確保を最優先としたことにより、コスト低減活動が一時的に停滞し、コストアップの要因となりました。

Q: 生産固定による販売機会逸失は、第2四半期で挽回が可能なのでしょうか。

A: 第1四半期で販売機会を逸失した製品は、採算性の高いオフィスのカラー中速機やプロダクションプリンター機が主体であったため、製品ミックスが悪化し損益に影響しました。第2四半期以降は、部材の供給体制が当初想定より前倒しで回復していることから、生産体制も正常化し、第1四半期での販売機会逸失分の挽回と、製品ミックスの改善による利益改善を見込んでいます。

Q: 第1四半期の前年対比での営業利益増減分析は、説明会資料の参考情報に記載されていますが、第1四半期と第2四半期の見通しを比較した場合、価格、数量、コスト、経費の点からそれぞれどの様に変化するのかヒントを下さい。

A: まず、価格については第1四半期同様、一定の影響を想定しています。数量については、第1四半期比で複合機(MFP)の販売台数伸長率は5%程度と見込んでおり、第1四半期での販売機会逸失の挽回による製品ミックスの改善による効果も見込んでいます。また第1四半期ではマイナス影響となったコストアップについては、調達の正常化に伴い利益貢献を見込みます。最後に経費面については、将来成長に向けた研究開発費を引き続き織り込んでおり、現段階では大幅に減少させることは考えていません。

■ オプト事業関連

- Q: 第1四半期のディスプレイ材料分野は堅調な販売推移となった模様ですが、その背景について教えてください。また第2四半期の見込みについても教えてください。
- A: 当社は昨年後半より、戦略商品である視野角拡大用 VA-TAC フィルムの新製品展開により、調整局面の中でも着実に受注を増やしており、第1四半期でも好調な販売を維持しました。第2四半期は液晶パネル市場の調整が始まるものと思われませんが、VA-TACフィルムの販売拡大により、販売数量、売上高ともに第1四半期並みの水準を見込んでいます。

以上